

不燃ごみ、7種9分別で資源化推進

今年4月1日に不燃ごみの7種9分別をスタートして約半年。皆さんの協力でペットボトル・プラスチック容器包装類の分別収集は順調に実施できており、資源化量は大きく増加しています。

◆変更点のちやうど
 〔分別区分〕
 ◇ペットボトルの単独分別
 ◇プラスチック製の包装・袋を不燃ごみに分別
 ◇食用びん類を3分別に簡素化

〔排出ルール〕
 ペットボトルとプラスチック容器包装類を出す袋を無色透明な袋に統一。
 ◆搬入量が1.3倍に
 ペットボトルとプラスチック容器包装類の施設への搬入量合計は、前年度同時期（4～9月）の累計と比較すると約1.3倍（106.6増）になりました。


◆まだまだ課題も
 間違った分別のごみや汚れたプラスチック容器包装類はリサイクルプラザで手作業で除去しています。除去物が多いと作業効率の低下につながり、資源物全体がリサイクルできなくなる可能性があるため、適正な分別・排出にご協力をお願いします。なお、ルールの守られていないごみは収集できないためご注意ください。

◆ごみ出しは月1回以外にも
 排出機会の確保のため、市内公共施設9か所にペットボトルとプラスチック容器包装類の回収ボックスを設置中。しかし、生ごみや家電製品など、ペットボトルやプラスチック容器包装類以外のものが混ざっていることがあります。排出ルールを守ってご利用ください。

◆回収ボックスの設置場所
 市役所、西支所、加佐分室、東西図書館、中・南公民館、大浦・城南会館

ペットボトル、プラスチック容器包装類の分別


1 ペットボトル



が目印

◆ポイント
 ①キャップを取る
 ②ラベルをはがす
 ③中をすすぎ洗いし水を切る
 ◇はがしたラベルやキャップはプラスチック容器包装類へ。

2 プラスチック容器包装類



が目印

◆分別例
 ◇トレー◇卵のパック◇発泡スチロール◇お菓子や総菜、衣類などの包装や袋◇プリンや飲み物などのカップ製品のふた◇レジ袋などの袋類

◆ポイント
 汚れているものは軽く洗って水を切る。汚れが落ちない包装や袋は「可燃ごみ」へ。

※プラスチック容器類は汚れていても可燃ごみとして出せません。洗ってプラスチック容器包装類として出してください。

プラスチック容器包装類に間違っているもの

プラスチック容器包装類に間違っているものをご紹介します。正しく分別できていますか？

◆紙製容器などの紙製品
⇒可燃ごみ



◆ライターなど
⇒有害ごみ



◆プラスチック製品（材質がプラスチックの歯ブラシ、スプーン、フォークなど）
⇒その他埋立ごみ



◆まだまだ課題も
 間違った分別のごみや汚れたプラスチック容器包装類はリサイクルプラザで手作業で除去しています。除去物が多いと作業効率の低下につながり、資源物全体がリサイクルできなくなる可能性があるため、適正な分別・排出にご協力をお願いします。なお、ルールの守られていないごみは収集できないためご注意ください。



プロフィッシャーマン ひらわ たくや 平和 卓也 さん

ハナツバキ

育ちは福知山で、小学生の時には父の影響で竿を持ち、ハエ（オйкаワ）やブラックバスを追いかけ釣りキチ三平のアニメにくぎ付けだった。野球に明け暮れる球児でありながらも練習のない早朝に釣りに出かけたという。甲子園を目指し、釣りも控えて打ち込んだ高校野球。試合を見に来ていた地元会社に声を掛けられ進路が決まった。就職後は会社の野球部に主力を注ぎ、会社のチームは京都代表として国体出場を果たした。

海磯釣りに魅入られたのもその頃だったという。職場の上司に連れられ大浦まで夜釣りに出かけたことだった。初めてながら磯の王様とも言われる「チヌ（クロダイ）」を2匹も釣り上げ、すっかり磯釣りの虜に。仕事、野球の練習を終えると週に3日は夜釣りに出かけ、翌朝そのまま出勤というハードスケジュールで年間1000日は釣りに出かけた。

転機はズレ

職場の釣りの仲間と年に1回行う釣り遠征、四国最南端の足摺に出会ったグレ（メジナ）。当時

はチヌが大人気だったうえ、水温の低い舞鶴では小さなものしか釣れず、チヌ釣りの外道目的の魚程度にしか見られていなかったが、グレは動きが早く引きも強い。食欲が強く、撒きエサを上手く使えば次々に釣れるなどゲーム性が高く、食べてもおいしい。たちまちグレ釣りにハマった。

釣りの番組や雑誌を見てはプロのアドバイスを真似るが全然うまくいかない。そんな時、福井県でグレ釣り大会があり、プロも招待選手で出場すると知り、すぐに「盲学したい」と大会の主催に電話すると「大会に見学はない。予選を勝ち抜けば決勝戦でプロと一緒に釣りができる」という回答に大会出場を決めると、予選を通過。決勝ではプロ選手の中に食い込み準優勝し「無名の大新人」としてグレ釣りの世界へと進むことになった。

釣り一筋で生きていく

その後も全国のグレ釣り大会に挑戦した。次第に名を知られるようになり、釣り番組に出演。雑誌の連載も5～6本抱え、仕事と釣りですべての釣りがノルマのようにになり、1年ずだけになっ

ていた。釣りに出かけた先で倒れることもあった。会社は、自分がいなくても回るが釣りの仕事は自分しかできない。30歳の時、会社を退職し、釣り一筋で生きていく決意をした。海釣りに出会った舞鶴で釣具店を開いた。釣りの関係の仕事だけで生活し、翌年からの5年間にグレ釣り3度の日本一に輝いた。一方で、番組出演などで店頭に立って、店に来てくれたファンに会えないことも多くなり店は閉めることに。それでも交流の場として釣り船の営業は続けている。全国からファンの人が家族連れで来てくれ、釣具店時代の常連客も来てくれるのだとか。

プロとして、競ったり技術を教えたりすることが仕事である一方で、純粋な釣りの楽しさをも広めていきたいという。「せっかくの休みに釣りに来て、釣れずに悲しそうに帰っていく人も見かける。釣果も大事だけれども釣れなくても楽しかったと笑顔で帰ってもらえるような釣りの世界を伝えたい」と笑う。

かつて、テレビに映る「釣りキチ三平」に魅せられていた平和さん。今では、その姿が多くの釣り人を魅了し、釣りの楽しさを伝えている。

日当たりの良い山地に生える多年草。大きなものでは高さ2mにもなり、短毛がありざらつく。葉は対生し、短い柄があり長さ10～15mm位の長楕円形で縁には鋸歯がある。夏から秋、枝分かれした茎の先に、白色の花をたくさん付ける。花は、筒状花ばかりで雄しべが突き出ている。ウイルス病にかかると葉に斑が入る。名前の由来は、ヒヨドリの鳴く頃に咲くからといわれるが、種の綿毛を火打石の火口としたことから「火を取る花」からとの説も。【協力】瓜生勝朗/市文化財保護委員(植物分野)



ヒヨドリバナ (キク科)

まいづる 花図鑑 vol.157